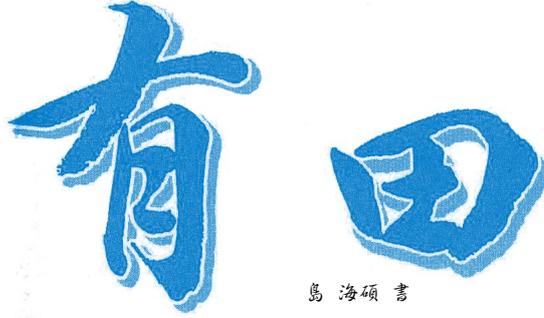


No. 2922

2019-2020年度

会 長 橋本 拓也
幹 事 中元耕一郎
R広報委員長 脇村 重徳



島海碩書

第2640地区
例会日 毎週木曜日 12:30
例会場 紀州有田商工会議所6F
〒649-0304
有田市箕島33-1
紀州有田商工会議所2F
有田ロータリークラブ
Tel (0737) 82-3128
Fax (0737) 82-1020
創 立 昭和34年6月15日
ホームページ <http://www.aridarc.jp>
e-mail office@aridarc.jp

～ 四つのテスト 言行はこれに照らしてから ～

1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか



本日のプログラム

令和元年8月22日 第2923回

- ・外部卓話：「トランプ大統領とアメリカの今後」丸田隆氏（NY大学ロースクール兼任教授・弁護士）
- ・ソング：「四つのテスト」

前回の報告（第2922回例会）

開催日 令和元年8月8日(木)

点 鐘 (橋本会長)

ゲストの紹介 (児嶋親睦活動委員長)

ゲスト:松尾詩朗氏(紀美野町教育委員会 社会教育委員・評価委員及び紀美野町人権擁護委員)
任泰然君(米山奨学生)

米山奨学金授与



橋本会長より
8月分の米山奨学金が任君に
授与されました。



任君より東京のお土産を
いただきました。

ニコニコ箱の報告 (岩橋SAA)

橋本君: 松尾様、本日はようこそ有田RCへお越しく
ございました。本日の卓話よろしくお願
いします。
中元君: 松尾詩朗先生、本日の卓話よろしくお願
いいた
します。
成川(守)君: 8月から食事をゆっくり食べられ
ます。ありが
たい!
上野山(捷)君: 松尾詩朗様、本日の卓話ありが
とうござ
います。

2019-2020年度クラブ方針

明日に繋がる活動

Activities for a brighter future



次回のお知らせ

令和元年9月5日 第2924回

- ・外部卓話：「子ども虐待予防のために私たちが
できること」柳川敏彦氏（和医大保健看護学部長）
- ・ソング：「君が代」「奉仕の理想」

児島君: 松尾先生ようこそ有田RCへ

宮井君: 松尾先生、本日の卓話ご苦労さまです。勉強させ
ていただきます。

松村君: 箕高野球部の2年生が熱中症で倒れ、3日間入
院したそうです。毎日練習している若者でも、熱中症に
なるとのこと。私も十分注意したいと思います。

上野山(栄)君: 松尾詩朗様、ようこそ有田RCへお越し下
さいました。卓話で勉強させていただきます。

橋爪(誠)君: 松尾様ようこそ有田RCへ。本日よりしくお願
い致します。

川口君: 松尾詩朗様、ようこそ有田RCへ。本日の卓話宜
しくお願い致します。

石垣(泰)君: 松尾詩朗様、ようこそ有田RCへ。本日の卓
話宜しくお願いします。

児嶋君: 有田ロータリークラブへようこそ。松尾詩朗様、本
日の卓話よろしくお願い致します。

菅原君: 松尾詩朗様、本日の卓話宜しくお願い致します。

嶋田(恵)君: 松尾詩朗様、有田ロータリークラブへようこ
そ。本日の卓話よろしくお願い致します。

岩橋君: 松尾詩朗先生、卓話よろしくお願いします。

出席報告 (石垣(泰) 例会運営委員長)

本日の会員数31名
(出席規定免除会員8名)
出席会員数24名
(出席規定免除会員7名)

会長の時間 (橋本会長)

「青少年奉仕活動について」

松尾さま、ようこそ有田RCへお越しくございました。松尾

さまには児童の育成に関するお話をして頂けると思いますので、今日はロータリーの青少年奉仕活動について勉強してみたいと思います。



ロータリーが行っている青少年奉仕活動には、①インターアクト、②ローターアクト、③ロータリー青少年指導者養成プログラム (RYLA)、④青少年交換があります。

現在、この①～④は有田RCにおいて何も活動を行っていませんが、過去においては積極的に活動を行っていました。

- ①インターアクト: 有田RCでは活動経験なし
- ②ローターアクト: 1969年(昭和44年)～2009年(平成21年)
- ③ロータリー青少年指導者養成プログラム (RYLA):
- ④青少年交換:

(ア)デレーノRCとの短期青少年交換プログラム(クラブ独自のプログラム)

海外派遣: 1973年(昭和48年)～2008年(平成20年)・・・34名

海外受入: 1974年(昭和49年)～2008年(平成20年)・・・36名

(イ)地区青少年交換プログラム(長期)

海外派遣: 1988年(昭和63年)～2002年(平成14年)・・・8名

海外受入: 1987年(昭和62年)～2000年(平成12年)・・・5名

多くの若者達の成長をサポートしてきましたが、今は立派な社会人として活躍されていることでしょう。

次に、ロータリーにおける青少年奉仕の歴史を振り返りたいと思います。

1) インターアクト・クラブ

1962年、最初のインターアクトクラブがフロリダ州メルボルンに設立されました。その後、世界各国に拡大し、日本にも翌年1963年、宮城県の仙台育英学園高等学校にIACが設立されました。

2) ローターアクト・クラブ

RACについては先週ご紹介したので割愛します。

3) RYLAの始まりとその発展

RYLAは、1959年オーストラリア・クイーンズランド州の自治権獲得百周年記念祝賀会に、英国のエリザベス女王の代理としてアレクサンドリア王女が派遣されました。これを機会にプリンスベンRCがホストをつとめ、王女と同世代のオーストラリア中の青年リーダーたちが集まりました。青少年の資質の良さに感心したロータリアン達は、この催しを毎年行う事を決め、1週間、文化・社会・教育プログラムに参加させることにしました。

こうしてRYLAが生まれ、そして1971年にはRIにとり上

げられ、RYLAとして位置付けられ、世界的なプログラムに発展しました。1973年にはアメリカで、1974年にはフランスで、さらに1976年には日本でも始められました。日本初のRYLAは、当時の第366地区(大阪・和歌山地区)でした。

最近では、有田RCから米山奨学生だった董涛君が過去2回参加しています。

4) 青少年交換

青少年交換はデンマークのコペンハーゲンRCが1972年アメリカの少年数人を受け入れる手配をしたことに始まりました。現在は国際ロータリーの常設プログラムになっており、15歳から19歳までの多くの学生が数週間又は1年間という期間設定で他国のロータリアン家庭にホームステイしています。そして、自分の地域を越えた世界を意識し始めた年齢の彼らに異文化への配慮を教える素晴らしい出発点となっています。

RACのRIの最初が1968年、有田RCはその翌年、青少年交換もRIの最初が1972年、有田RCはその翌年にデレーノとの青少年交換を始めています。先輩方の積極果敢なチャレンジには頭が下がる思いです。

幹事報告 (中元幹事)

- 1) 地区より
会員増強・新クラブ結成推進月間 リソースの案内が届く(会員組織(増強)委員会にお渡ししました)
地区大会事務所開所のお知らせが届く
「全国統一アクトの日」の案内が届く(丸山委員長にメールで転送をしました)
「第15回ロータリー日韓親善会議2019」の案内が届く(菅原佳典委員長にメールで転送をしました)
海外クラブとの姉妹・友好関係状況についてのアンケートが届く(有田RCは海外との姉妹・友好クラブは無いと地区に報告しました)
- 2) 有田2000RCより7～8月、8月～9月例会プログラムが届く(後方に掲示)
- 3) ロータリーの友事務所より2019-20年度ロータリーの友の手引書が届く(回覧および脇村委員長にお渡ししました)
- 4) 堺青陵RCより創立30周年記念誌が届く(回覧)
- 5) 日本ロータリー財団より確定申告用寄付金領収証が届く(松村委員長にお渡ししました)
- 6) 先月(7月)、新会員2名が入会されましたので、新たな組織図および緊急連絡網を配付しました
- 7) 新会員2名のメンターが第2回理事会で承認されました(山口君→橋本、大塚君→中元)
- 8) 次週8月15日(木)は休会です

ロータリー友誌 (菅原R広報委員)

【横組】

- P3 RI会長メッセージ 会員増強について書かれています
- P7～「会員増強・新クラブ結成推進月間」にちなみ各ク

ラブの「同好会」の紹介がなされています。

その中でもP13に面白い同好会「痛風友の会」の紹介があります

P14～ 2017年に劇的な数の会員増強が行われた高崎ロータリークラブの現状について書かれています

P17～ 今年のハンブルク国際大会に参加された方々の感想が掲載されています

P24～ 米山記念奨学金事業解説がされています

【縦組】

P13 友愛の広場に堺北RCの「ロータリーデー・拡大例会」の記事が掲載されており会員拡大のひとつの方法が挙げられています

P24 和歌山市内9クラブのIMについての記事

P25 堺フェニックスRC及びRACのハンブルク国際大会での会員増強に関する報告

所感 今月号に掲載されている記事を通して会員増強に対して各クラブの工夫を凝らした取り組み事例があり、当クラブにおいてもこれら事例を参考にできることがあるのではないかと感じた

委員会報告

* 青少年奉仕委員会(丸山委員長)

8月1日例会後、有田ローターアクトクラブ復活に向けて、意見交換会が行われました。

ゲストの紹介

(橋本会長)

本日の卓話者松尾詩朗さんをご紹介します。

松尾さんは、現在、紀美野町教育委員会、社会教育委員・評価委員、紀美野町人権擁護委員をされています。

簡単に経歴をご紹介します。和歌山大学教育学部ご卒業の後、教育者として定年までの人生を、海南・海草郡のいくつもの小学校や中学校の教員として児童の育成に力を注いでこられました。

私と松尾さんとは、海南高校の同級生で、高校時代はお互いに面識はなかったのですが、数年前の同級生のゴルフコンペで一緒に回って以来、親しくなりました。定年後ご自分の畑で無農薬による野菜作りをされています。レタス、葉物野菜、トマト、玉葱、大根、キュウリ、カボチャ、ジャガイモ、オクラ、パプリカなど、収穫時期になったらいつも彼が電話をくれて、彼の家まで収穫に行きます。いつも真面目な松尾さんが、どの様に子供たちと接してきたのか大変興味があります。本日はどうぞよろしくお願い致します。

卓話

「教える」から「学び合う」へ

紀美野町教育委員会

社会教育委員・評価委員及び紀美野町人権擁護委員

松尾 詩朗 様

私は教育者としての使命は、「生きている幸せを感じながら、自分の力で飯が食える人間を育てる」ことだと考えています。これは、自分自身がそのように育てられ、自分

の子どもにも切に願っていることです。また、30歳になった頃、民間企業に勤務している同窓生から、人間関係をうまく作れない部下の対応に困っているという話があり、それ以来強く意識するようになりました。

23歳で教育の世界に足を踏み入れてから、教科指導、学級経営、生徒指導、部活動の指導など、先輩を始め周りの方々の力をお借りしながら試行錯誤の毎日でした。

40歳の頃、少し光明が見えたように思いました。2年間和歌山大学修士課程にて、生徒が自分のペースで授業内容を確認できる教材ソフトを開発し、使用した生徒の学習データを分析した結果、生徒によって理解しにくい所、理解に必要な時間も異なることを科学的に立証することができました。また、この教材を使わずとも、友達に教えてもらい解決できたという生徒も20%から30%程度いました。

野球部を担当したときの経験でも、技術的に上位の子どもたちが、根気よく同級生や後輩にアドバイスできるチームは全体がレベルアップし、必ず成果を出していました。

この頃から、教師の説明時間をできるだけ短くし、生徒が互いに教え合える時間を確保した授業を研究するようになりました。教師がコーディネーターとなり、生徒が主体的に取り組むことにより、成果も上がることが確認できました。また互いに教え合うことで、生徒同士の人間関係が良好になることも肌で感じることができました。

小学校校長となった時、教育基本法を再確認し、経済産業省作成の「社会人基礎力」そして「人工知能に負けない子ども、どう教育するか」(2015年11月16日 東京大学 大学院情報学環 教授 山内祐平氏)を参考にしながら授業改革に取り組むことにしました。

更に、上越教育大学教職大学院教授西川純氏の指導を受け、課題の全員達成を目指し、互いに教え合うことを大切に『学び合い』による授業を学校全体で取り組んだことにより、教科学習の中で学力も人間関係づくりも同時に身につく授業を具現化することができました。

謝辞

(橋本会長)

松尾さん、卓話有難うございました。

『「教える」から「学び合う」へ』をテーマにお話を頂きました。生徒全員を同じように教えることの限界を理解し、生徒それぞれの理解力と理解スピードに合わせた教育を迫られてきたようで、素晴らしい教育者だと同級生ながら改めて感服致しました。企業の従業員教育にも同じようなアプローチができるので自社でも活用したいと思えます。

閉会・点鐘

(橋本会長)

